

学年	科目名	教科書名	副教材名
高3 (総進)	日本史特講	詳説日本史 (山川出版社)	詳説日本史図録 (山川出版社)

1. 授業のねらい

- ① 日本の歴史の展開を総合的に考察し、歴史的思考力を培い、国際社会を主体的に生きる国際人としての資質を養う。
- ② 歴史を考察する基本的な方法を理解するとともに、歴史への関心を高め、歴史的な見方や考え方を身に付ける。
- ③ 史料・資料の読解力を養う。
- ④ 大学入試問題に対応できる基礎力を身に付ける。

2. 授業のすすめ方

- ① 主として講義形式で行います。重要事項を板書します。必要に応じてプリントを配付します。日本史専用ノートを用意し、授業中の重要事項は必ず書き留めるようにしてください。配付されたプリントはなくさないようにしてください。

3. 学習上の留意点

- ① 歴史は科学です。原因・過程・結果の積み重ねが、教科書にまとめられています。人物名・事件名・年号などを暗記することも大切ですが、歴史事象の背景を理解することによって、歴史的思考力を養うことができます。授業ではそのことを意識して臨んでください。
- ② 歴史（過去）を学ぶことによって、現在の問題（課題）を考え、未来（解答）を導き出す学問です。常に「なぜ」の問いかけを持つようにしてください。
- ③ 教科書をよく読んで、歴史の流れをつかむようにこころがけてください。
- ④ 歴史書（教科書）は様々な資料・史料をもとにして、書き上げられています。歴史を理解するためには史料の読解は欠くことができません。授業中には適宜、史料集を用いて、史料の読解力を身に付けることをめざします。
- ⑤ 山川出版社の『詳説日本史』は多くの高校で使用され、大学入試問題作成者も参考にしています。大学入試問題はこの教科書から出題されるといっても過言ではありません。教科書の本文だけでなく、脚注・地図・図版・史料・写真などにも目を通しておくことが大切です。

4. 副教材・参考文献

- ① 『詳説日本史図録』（山川出版社）は、授業には必ず用意しておいてください。
- ② 授業の理解を高めるため、『日本史用語集』（山川出版社）の購入を推奨します。受験生の必需品です。知識の確認用に『山川 一問一答日本史』（山川出版社）も推奨します。

5. 評価の視点・テスト・課題等

- ① 定期考査3回（100点×3）・平常点（1学期20点+2学期10点）
- ② 平常点は授業中の態度・課題の提出状況を中心につけ、積極的に授業に参加する姿勢、発問に対する回答状況等を評価します。
- ③ 定期考査、平常点等に基づいて「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点について学年末に評価します。

6. 定期考査

定期考査は授業内容から主に出題します。毎回の授業に集中し、教科書をしっかり読んでください。

7. 授業計画

期	月	単元名・学習項目	評価方法	到達目標		
一 学 期	四 月	第8章 近世の幕開け 1 織豊政権 2 桃山文化	中間 考 査 授 業 姿 勢 ノ ー ト の 状 況 期 末 考 査	1 ヨーロッパ世界との接 触やアジア各地との関 係、織豊政権、幕藩体制 の特色、近世国家の形成 過程を理解する。 2 幕藩体制の成立過程と 特色を理解する。 3 幕藩体制の動揺と近代 化の基盤の形成につい て理解する。		
	五 月	第9章 幕藩体制の成立と展開 1 幕藩体制の成立 2 幕藩社会の構造				
	六 月	3 幕政の安定 4 経済の発展 5 元禄文化				
	七 月	第10章 幕藩体制の動揺 1 幕政の改革 2 宝暦・天明期の文化 3 幕府の衰退と近代への道 4 化政文化				
	九 月	問題演習 第11章 近代から近世へ 1 開国と幕末の動乱 2 幕府の滅亡と新政府の発足			基 礎 学 力 到 達 度 テ ス ト 授 業 姿 勢	4 開国・明治維新から自由 民権運動を経て立憲体制 が成立するまでの過程を 理解する。 5 立憲国家の展開を理解 する。 6 第一次世界大戦が国内 の経済・社会に及ぼした 影響を理解する。 7 近代産業の発展と近代 文化の特色を理解する。
	十 月	第12章 近代国家の展開 1 明治維新と富国強兵 2 立憲国家の成立			ノ ー ト の 状 況	
	十 一 月	第13章 近代国家の展開 1 日清・日露戦争と国際関係 2 第一次世界大戦と日本 3 ワシントン体制			期 末 考 査	
十 二 月	第14章 近代産業と生活					
一 月						
三 学 期	二 月					
	三 月					

※シラバスの内容（時間や事項）については、理解度やその他の都合により省略や前後することもありうる。